

第5回 米原市庁舎等整備検討委員会

資料



平成26年7月28日(月)19:00～
会場:近江庁舎

<議事>

I 新庁舎の基本理念について

- ◆前回ワーキング結果を踏まえた基本理念【素案】

II 新庁舎の基本機能について

- ◆新しい庁舎の整備事例紹介(スクリーン映写)
- ◆基本理念【素案】に基づく必要な機能

◆基本理念ワーキングの主な意見

A班

- 「市民の絆」は印象的なので残してはどうか。
- 「人が元気」「自慢できるシンボル」になってほしい。
- 【①米原らしさ】を理念として前面に出すべきではないか。庁舎として当たり前の文言もある。
- 【①米原らしさ】には「交通中継都市」や「東西文化分水嶺」が入る。「水源の里」もよく使われ、点ではなく面的に捉えればよい。
- 【⑦人にやさしい】は肝心。ユニバーサルデザインの考え方がある。
- 【②安全安心】では、「司令塔機能」の文言を活かしてはどうか。
- 【③賑わい】は【⑧開かれた】と同じくくりになるのでは。
- 【④環境】では「自然環境思いやり」、「省エネ」などが軸になる。
- 【⑤将来】は【⑧開かれた】と結びつくのではないか。
- 【⑥経済】は当たり前なので理念としては入れなくてもよい。
- 【⑧開かれた】は「市民自治・協働」にもつながり重要だと思う。
- 場所によって理念も変わってくる。→後で見直しも可。
- 職員意見にもある「協働」の文言を入れてはどうか。
- 米原は交通の中継点だが、通り過ぎるだけで恩恵が何もない。
- 交通の中継点は、言い換えれば人やモノ、情報が行き交う「結節点」になり、そこから広がっていく可能性もあるのでは。
- 「若い人」が中心となっていくことが大事。
- 開かれた庁舎であれば人や情報がつながり若い人も集まって、市民自治、活力になっていくのでは。
- 「地の利」を活かして賑わいができれば、子々孫々へも誇れる。
- 「職員の働きやすさ」は施設によるので理念に入れなくてもよい。

B班

- 【つながる】というテーマをあげてもいいのでは。
- 新幹線の駅と高速のICの両方があるのは、米原の大きな特徴。
- 【①米原らしさ】は地形の特徴と風土の特徴を合わせてキャッチフレーズをつくれればいいのでは。またそれが市の計画と合っていれば望ましい。
- 地域木材の利用は米原の経済の活性化につながるという意味で、環境と経済をつなげて考えてよいのではないか。【④環境】と【⑥経済】をまとめる。
- 【③賑わい】【⑦人にやさしい】【⑧開かれた】を一つにまとめる。
- 「田舎都市…」からローカルホスピタリティというキーワードに置き換えてもよいのではないか。
- 「水源の里まいばら」も市のHPによく出てくるキーワードである。上位計画との整合性を図ることが大切。
- 中継ではなく交通中核都市の方がいいのでは。
- 【②安全・安心】は、平常時と非常時の2種類があるので、分けて考える必要があるのでは。
- 災害時に確かな情報を把握し、発信できる司令塔機能が重要。
- 「地域の賑わい」と「観光の賑わい」がある。
- 庁舎は、職員の教育、育つ場所としても重要といえるのでは。
- ハード、ソフト面両方で、100年後も認められる庁舎であるべき。
- 「職員が働きやすい…」というのは執務環境が良いという意味である。
- 経済面では、無理をしないことが大切。

◆基本理念の整理案

A班

■基本理念

「水源の里まいばら」を継承し、人・物・情報の「結節点」を活かした拠点をつくる

【①米原らしさ】

■整備理念

【③賑わい】【⑧開かれた】
【⑤将来】

●次世代につながる、市民自治・協働・賑わいの開かれた庁舎

市民と行政が協働して自治振興・まちづくりを進め、賑わいと活力を生み出す庁舎を目指す。

【②安全・安心】

●司令塔として、市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎

災害に強い建物や非常時の機能を確保するなど、市民を守るための司令塔となる庁舎を目指す。

【⑦人にやさしい】

●人にやさしく、市民どうしの絆と生きがいを育む庁舎

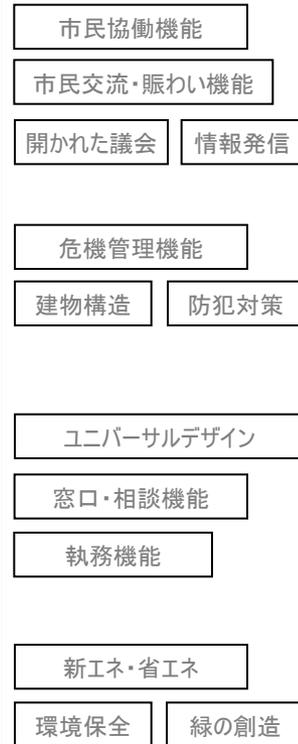
年齢や性別、立場を問わず、利用するすべての人が快適で使いやすい、心の通う庁舎を目指す。

【④環境】

●省エネルギーやエコを推進し、自然環境を思いやる庁舎

地球にやさしく、自然環境と共生するなど、公共施設として環境配慮を優先する庁舎を目指す。

想定機能



B班

■基本理念

文化・交通の「結節点」を活かし、「ローカル・ホスピタリティ」を実現する

【①米原らしさ】

■整備理念

【③賑わい】【⑧開かれた】
【⑦人にやさしい】

●人にやさしく、賑わいのある開かれた庁舎

市民と行政が協働してまちづくりを進め、観光も意識した賑わいと活力を生み出す庁舎を目指す。

【②安全・安心】

●司令塔として、市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎

災害に強い建物や非常時の機能を確保するなど、市民を守るための司令塔となる庁舎を目指す。

【⑤将来】

●柔軟性が高く、利用する人や社会とともに成長する庁舎

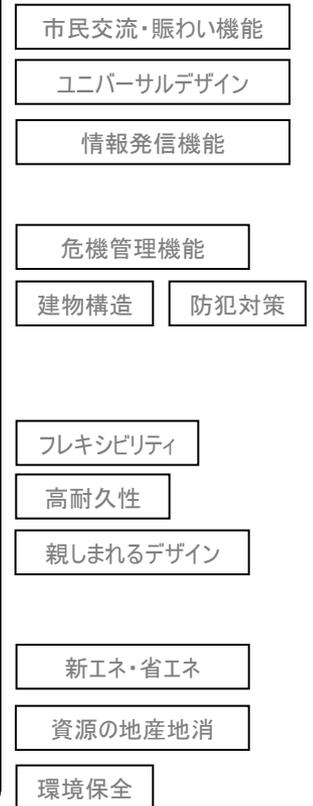
将来にわたって利用しやすく、人や社会とともに柔軟に成長していく庁舎を目指す。

【④環境】【⑥経済】

●省エネルギーやエコを推進し、自然環境を思いやる庁舎

地球にやさしく、自然環境と共生するなど、公共施設として環境配慮を優先する庁舎を目指す。

想定機能



各班の基本理念の整理を踏まえた**統合案** →次頁へ

■基本理念

「水源の里」としての個性と魅力を受け継ぎ、未来へつなげる新たな拠点

人々の命を守る「水源の里」として生まれ、歴史や文化を紡いできた地域の個性と魅力を受け継ぎ、未来につながる新たな米原市の拠点として、人や物、情報が行き交う結節点としての「地の利」を活かし、人々を思いやりでもてなす新庁舎の実現に向けて、5つの整備理念を定めます。

■5つの整備理念

●未来につながる、豊かな市民力を活かす開かれた庁舎

市民と行政が協働して自治振興・まちづくりを進め、賑わいと活力を生み出す庁舎を目指す。

●市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎

災害に強い建物や非常時の機能を確保するなど、市民を守るための司令塔となる庁舎を目指す。

●誰もが使いやすく、人にやさしい快適な庁舎

年齢や性別、立場を問わず、利用する全ての人々が快適で使いやすい、心の通う庁舎を目指す。

●永く親しまれ、人や社会と共に成長する庁舎

未来にわたり親しまれ、若い人が学び育ち、人や社会と共に成長していく庁舎を目指す。

●まいばらの山・川・湖を思いやり、環境の創造・保全を推進する庁舎

まいばらの自然環境を活かし、公共施設として環境への負荷の少ない庁舎を目指す。

想定機能

市民協働機能

市民交流・賑わい機能

開かれた議会

情報発信

危機管理機能

建物構造

防犯対策

ユニバーサルデザイン

窓口・相談機能

執務機能

フレキシビリティ

高耐久性

永く親しまれるデザイン

新工ネ・省エネ

環境保全

緑の創造

資源の地産地消

「水源の里」としての個性と魅力を受け継ぎ、未来へつなげる新たな拠点

整備理念

基本機能

1 未来につながる、豊かな市民力を活かす開かれた庁舎

- (1) 市民協働機能
- (2) 市民交流・賑わいの生まれる場の提供
- (3) 市民に開かれた議会の実現
- (4) 市民への適切な情報提供環境の整備

2 市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎

- (1) 災害時の危機管理機能の維持、市民への情報発信機能の強化
- (2) 安全性を確保し、災害に強い庁舎の実現
- (3) 市民の財産を守る、強化された防犯対策

3 誰もが使いやすく、人にやさしい快適な庁舎

- (1) 子どもから高齢者まで、あらゆる人に配慮したデザイン
- (2) 窓口機能の簡略化、相談窓口機能の充実
- (3) 効率的な執務環境

4 永く親しまれ、人や社会と共に成長する庁舎

- (1) 将来の変化に柔軟に対応できる、高いフレキシビリティを確保
- (2) 簡単なメンテでも長持ちする材料の活用
- (3) 永く親しまれ、愛されるデザイン・材料の活用

5 まいばらの山・川・湖を思いやり、環境の創造・保全を推進する庁舎

- (1) 自然エネルギーの有効活用
- (2) 省エネルギー技術の採用、環境負荷の低減
- (3) 周辺環境に配慮した、敷地内の緑被率の向上
- (4) 豊かな森林資源の地産地消

□用語解説

ローカルホスピタリティ	地域の人々が主導する地域の「癒し」「安らぎ」「おもてなし」
ユニバーサルデザイン	高齢者や障害者を含めた、すべての人が使いやすい形にすること。
フレキシビリティ	変化に対する柔軟性や融通性を意味し、用途や機能の変化、増築や改修、間取りの変化などに対応可能な建物の性質を意味する。
地産地消	地域で生産されたものを、その地域で消費すること。
ライフサイクルコスト	建物が計画・建設され、実際に運用され、維持、修繕や改修などが行われながら、最終的に解体されるまでにかかる費用のことをいう。
フリーアクセスフロア	オフィスのフロアを2重床にし、本来の床面と、上げ底にした床面との空間を利用して、電源や電話、ネットワークなどのケーブル配線を行なえるようにしたもの。
コワーキング スペース	事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルを行う貸オフィス。